

令和元年度 WEC 応用生態研究助成 審査結果

令和元年度（平成 31 年度）WEC 応用生態研究助成の募集に 32 件のご応募をいただきました。

採択の審査にあたっては外部審査委員による審査委員会を開催しました。審査委員会においては、新規性、ダム管理にとっての重要性、結果の応用性・現場への適用性、研究の実現性等の観点から、申請された研究課題について評価を行いました。特に、学術的に新たな視点が見られるか、具体的な仮説を設定しているか、結果がダム管理の現場に汎用的かつ現実的に適用される見込みがあるかといった点が議論の中心になりました。厳正なる審査の結果、下記の 4 件を助成研究として採択することになりました。

採択された研究が良い成果を上げることを期待します。

令和元年度 WEC 応用生態研究助成 採択研究

助成番号	研究テーマ	氏名	所属	助成年数
2019-01	ダム・貯水池に流入する流木量評価に向けた異なる林相の斜面崩壊地における流木生産・流出量の評価	五味 高志	東京農工大学農学研究院	1
2019-02	ダム撤去・ダム通砂による土砂供給の改善は河口千潟の生態系にどのように寄与したのか	鬼倉 徳雄	九州大学大学院農学研究院	2
2019-03	ダム湖における外来魚調査のための環境 DNA チップの開発	中尾 遼平	山口大学大学院 創成科学研究科	2
2019-04	三春ダムの魚類および湖内環境の空間的評価とその関係の解明	南 憲吏	島根大学エスチュアリー研究センター	2

また、平成 30 年度に 2 年研究として採択された下記 4 件については、今年度研究を継続することになりました。研究がより進展することを期待します。

令和元年度 WEC 応用生態研究助成 継続決定研究

助成番号	研究テーマ	氏名	所属	助成年数
2018-01	ダム・堰は遺伝的攪乱から在来個体群を守るのか？- 在来系統の探索と遺伝的攪乱の実態解明-	北西 滋	大分大学 理工学部	2
2018-02	日本初の荒瀬ダム撤去（貯水池撤去）事業に伴う、本川・支川の流水ネットワークとしての再接続化と水生昆虫の集団構造・遺伝子流動スケール・モニタリング	東城 幸治	信州大学 学術研究院 理学系	2
2018-03	DNA バーコーディングを応用したダム湖の動物プランクトンモニタリング調査の高度化	牧野 渡	東北大学大学院 生命科学研究科	2
2018-04	ダム湖内および流入河川内における魚類の分布域探索システムの開発と実践	棟方 有宗	宮城教育大学 生物学教室	2